

## 2.2. 「高効率ガス給湯器の普及促進による事業者の経営基盤強化および省エネルギー貢献、料金低減化のための調査」調査結果概要図

(実施者：社団法人北海道エルピーガス協会)

### 【調査目的・内容】

今後、北海道内の市場環境の悪化が予想される中、ガス給湯器(特に高効率ガス給湯器)の普及促進に向けた課題確認と対策検討を実施することで、LPガス販売事業者の意識改革を図り、構造改善に資することを目的とする。

#### 外部環境に関する文献調査

[各種文献を参考に北海道の外部環境を確認した。]

#### 会員事業者に対するアンケート調査：(有効回収件数:569件、回収率:38.0%)

[当協会の会員事業者に対し、ガス給湯化の取り組み実態や意識等を確認した。]

#### 消費者に対するアンケート調査：(有効回収件数:2,070件、回収率:41.4%)

[LPガス消費者に対し、取引LPガス販売事業者の評価や機器の使用実態等を確認した。]

#### 先進事業者に対するヒアリング調査：(調査対象:5件)

[ガス給湯化の実績件数が多い事業者に対し、具体的な取り組み内容等を確認した。]

### 【調査結果】

#### 外部環境に関する文献調査

北海道は全国平均と比較すると、灯油給湯率が高く、そのためガス給湯率が低くなっていることから、LPガスの単位消費量は少なくなっている。

#### 会員事業者に対するアンケート調査

直近1年間に1件でもガス給湯化実績のある事業者は「灯油から」が77事業者(13.5%)、「電力から」が27事業者(4.7%)に止まっており、燃転の推進が一部の事業者のみの課題ではないことが確認されている。

今後のガス給湯化への取り組みについて、「積極的に燃転に取り組む必要がある」と回答した事業者は21.9%に止まっており、今後の市場環境の変化を鑑みると、各事業者の意識は不十分となっている。

#### 消費者に対するアンケート調査

「LPガス」、「都市ガス」、「電力」、「灯油」の中で最も優れていると思うエネルギーを確認したところ、「使用時の安全性・安心感」について、「LPガス」を挙げた消費者は32.6%と少なくなっている。

取引LPガス販売事業者の「総合的な評価」については、「満足」との回答が62.0%となっているが、「ガス機器等の提案活動」(41.7%)、「快適な暮らしや生活情報の提供」(39.2%)の評価は低くなっている。

「ガス給湯機器」を使用している消費者は約30%で、使用している理由としては、「すぐにお湯が出る」、「設置する場所(スペース)をとらない」が上位に挙げられている。

#### 先進事業者に対するヒアリング調査

先進事業者においては、電力や同業他社との競争激化、過疎化の進行等の経営環境の悪化から、ガス給湯化推進の必要性を訴えており、今後の経営を維持・拡大していくための必須条件として捉えている。

### 【課題・対策】

#### ガス給湯化に対する意識の向上

今後の市場環境の変化を鑑みると、ガス給湯化の推進によるLPガス需要の拡大が重要課題となるため、各事業者におけるガス給湯化への意識の向上が必要となる。

#### 安全・安心面におけるLPガスに対する信頼性の向上

LPガスやガス機器が選択され、普及拡大するためには、安全・安心面におけるLPガスへの信頼性の向上が大前提となる。

#### 消費者に対する情報提供や提案活動の強化

今後、LPガスやガス機器の普及を図るためには、消費者の評価が低い情報提供や提案活動を強化することで、省エネ・高機能機器や自社のサービス内容等の認知度を高めることが求められる。